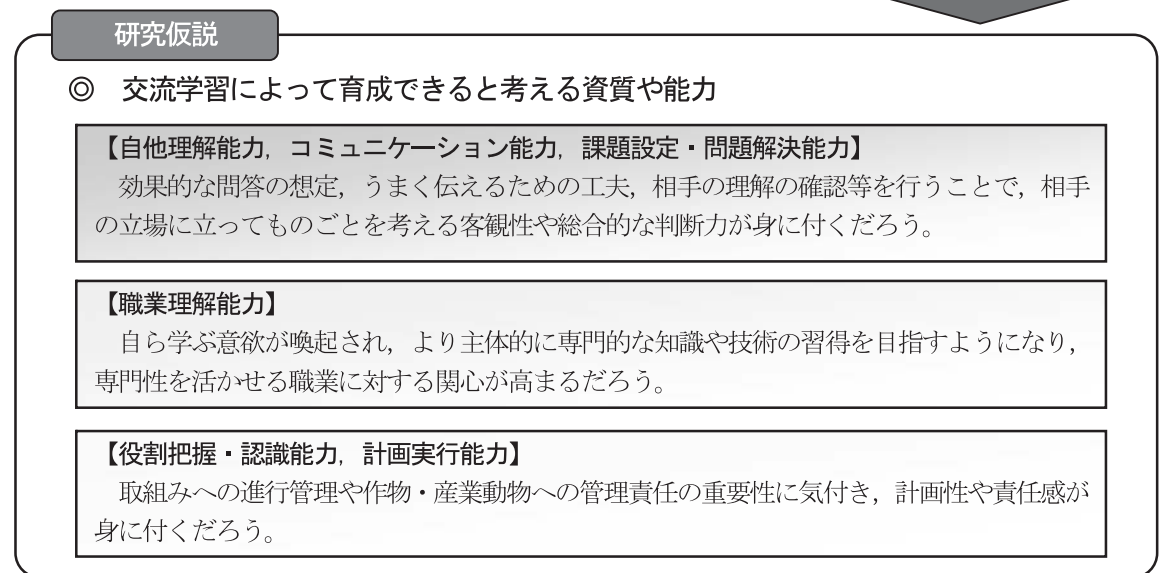
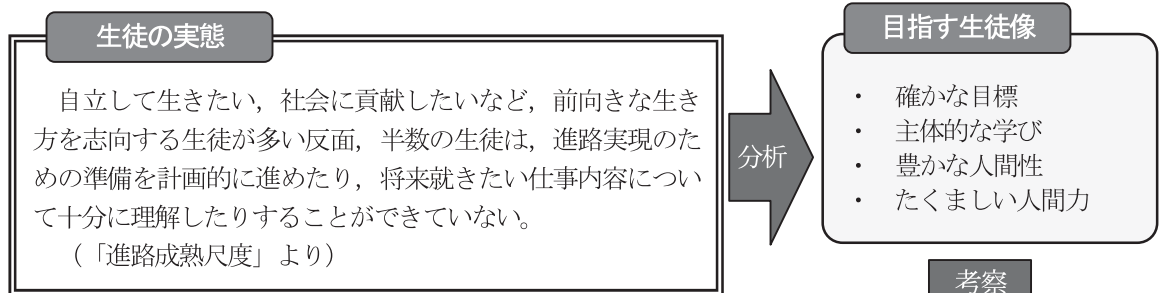


研究テーマ

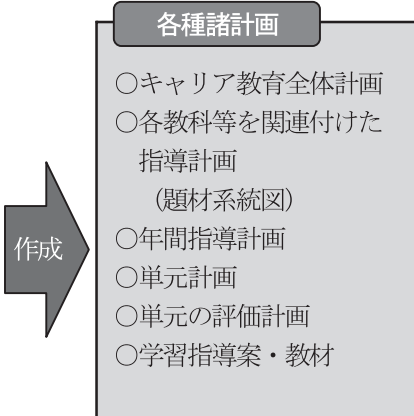
「食・生命」を基盤にした、キャリア教育の学習プログラムの開発

P



キャリア教育の理論的枠組み (東広島市地域)

人間関係形成能力	
自他理解能力	コミュニケーション能力
(目標) 自己と他者の互いを認め合うことを大切にしている行動することができる。	(目標) 適切なコミュニケーションを図り, 豊かな人間関係を築きながら, 自己の成長を果たすことができる。
(評価規準) 自己の職業的な能力・適性を理解し, それを受け入れて伸ばそうとする。	(評価規準) 多様な他者と場に応じた適切なコミュニケーションを図る。



A

◎ 課題の解決に向けた方向性

- ・ 目標を達成できなかった生徒への対応 (自信を喪失した生徒)

【修正】

- ・ キャリア教育全体計画
- ・ キャリア教育題材系統図
- ・ 各教科を関連付けたキャリア教育学習計画
- ・ キャリア教育の理論的枠組み

D

◎ 交流学習のねらいの設定

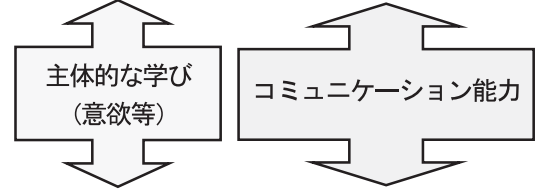
- ① 食べることと生きることは、そのとらえ方について、年齢による違いや男性と女性による違い、地域による違いがほとんど無く、普遍的・共通的な課題といえる。
- ② 体験活動を通して、生き物を育てることの大変さや生き物の生命をいただいて自分が生きていることの意味について学んだり、感じたりすることで、「生命の尊さ」について自分自身で気づき、考えることができる。
- ③ 生き物が生まれて育てられるところから、食卓に食材として上ってくるまでを考えることで、職業を通じて、多くの人が自分とかわっていることを学ぶことができる。

勤労観、職業観の育成

- ・ 体験活動を通じて、児童生徒は役割意識や責任感、社会常識や課題意識等を身に付けることができる。
- ・ 異年齢交流を通じて、児童生徒は相手の立場になって考えたり、自分の考えを伝えるための工夫を行ったり、コミュニケーション能力を身に付けることができる。

◎ 異年齢の児童生徒の交流によって「身に付けさせたい能力等」の明確化

- 教える立場（高校生）
 - ・ 下級生のよき模範となるための主体的努力
 - ・ 専門性や職業意識（学習意欲）の高まり



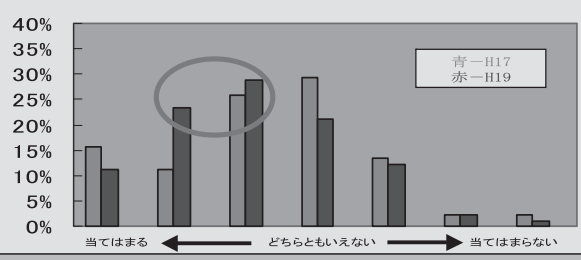
- 学ぶ立場（小・中学生）
 - ・ 上級生を模範とした自己目標の設定
 - ・ 学校で学ぶことと社会や身の回りの生活との結び付きの実感

- ### 【実施に当たっての留意点】
- ◇ 事前・事後指導の充実
「教科」（「総合実習」、「課題研究」等）、特別活動、学校行事等
 - ◇ キャリア・カウンセリングに係る教員研修会の開催

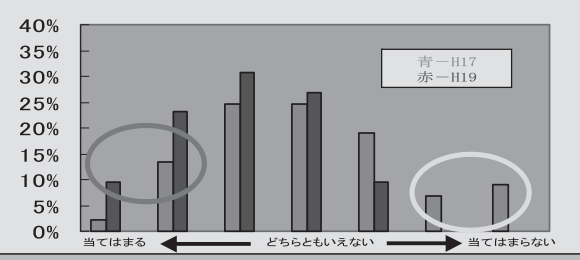


C

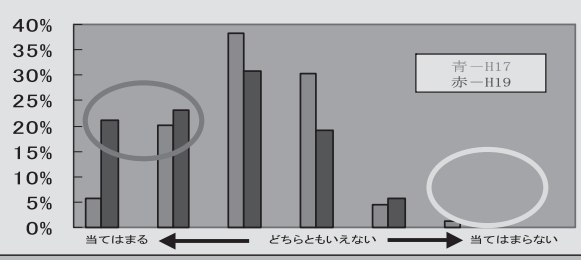
コミュニケーションを通じて、豊かな人間関係を築くことができる



社会で通用するために、しなければならぬことを理解している



自己実現のための進路計画を立てることができる



◎ 「進路成熟尺度」の評価・分析 (同じ生徒のH17とH19比較)

- ### 【向上した資質や能力】
- ・ 「社会で通用するために、しなければならぬことを理解する」
 - ・ 「自己実現のために進路計画を立てることができる」
 - ・ 「コミュニケーションを通じて、豊かな人間関係を築くことができる」